

文化庁日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

就労者に対する日本語教師【初任】研修

令和3（2021）年度実施

「就労者に対する日本語教師【初任】研修～日本で働く外国人をサポートしよう！～」

研修概要

e ラーニング科目

教育内容*	e ラーニング研修 科目名	単位数	担当講師名 (敬称略)	所属機関／役職名等 (2021年1月時点)
①	人の移動とダイバーシティ	2	春原憲一郎	京都日本語学校 校長
②	日本の外国人材受入れ施策	2	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
③	日本と海外の労働に関する制度の違い	2	丹野勲	神奈川大学 経営学部国際経営学科教授
③	外国人材とメンタルヘルスケア	1	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑤	就労者の多様性	1	高見澤孟	元米国国務省日本語研修所、元昭和女子大学大学院
④	就労者に対する日本語教育（就労のための日本語教育の多様性）	4	小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
④	就労者に対する日本語教育（就労に関わる日本語能力の要件）	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑥	職場におけるコミュニケーションと日本語教育	3	高見澤孟	元米国国務省日本語研修所、元昭和女子大学大学院
⑦	キャリア支援と日本語教育	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑧	就労者の異文化受容・適応	1	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
⑨	学習動機と就労現場における学習者心理	4	堀井恵子	武蔵野大学 名誉教授
⑬	職場コミュニケーションに関する言語間対照	1	林千賀	城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
⑩	コースデザイン演習—概要	2	伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
⑪	各種指導法—ビジネス日本語の具体的指導法	4	道木容子	東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
⑭	就労のための日本語教育教材・教具のリソース	2	吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校 校長

*教育内容の ①～⑭は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表16「就労者に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」記載の教育内容による。

【各講義の内容】

科目名	人の移動とダイバーシティ （2 単位時間）
担当講師	春原憲一郎 京都日本語学校 校長
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を学ぶ外国人就労者が、日本で仕事をするに至った背景や想いを想像できる日本語教師となり、現場の日本語教育にいかせる学びを得る。 ・移動とダイバーシティ、多様性というキーワードから、自分自身や日本語教育とのつながりを考える機会とする。
授業内容	第1部：進化の歴史とグローバル化に至るまで 第2部：グローバル化とデジタル世界の多様性

科目名	日本の外国人材受入れ施策 （2 単位時間）
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
授業の目的・目標	就労に関わる在留資格を理解する。
授業内容	第1部：ビザ（査証）と在留資格 第2部：入管法（出入国管理及び難民認定法）改正 第3部：E P A （経済連携協定）に基づく外国人候補者受入れ

科目名	日本と海外の労働に関する制度の違い （2 単位時間）
担当講師	丹野勲 神奈川大学 経営学部国際経営学科教授
授業の目的・目標	日本と海外の労働制度について国際比較の観点から考える。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用管理 ・賃金制度 ・労働時間と休日 ・職務、人事考課、キャリア、教育訓練 ・労働組合と労使関係 ・海外での日系企業の現地経営 ・海外派遣者の人材

科目名	外国人材とメンタルヘルスケア (1 単位時間)
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	メンタルヘルス、メンタルヘルスケアについて理解し、外国人就労者特有の多重な問題について知識を深める。
授業内容	1. メンタルヘルス、メンタルヘルスケアとは何か 2. 職場におけるメンタルヘルスケアの現状 3. メンタルヘルスケアの取組状況 4. 期待されるメンタルヘルスケア

科目名	就労者の多様性 (1 単位時間)
担当講師	高見澤孟 元米国国務省日本語研修所、元昭和女子大学大学院
授業の目的・目標	外国人の受入に関する現状と課題を理解する。
授業内容	・就労者の多様性に関する背景事情 ・様々な在留資格について

科目名	就労者に対する日本語教育 (就労のための日本語教育の多様性) (4 単位時間)
担当講師	小山紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
授業の目的・目標	外国人材とともに働いて経験した具体的なエピソードを知ることによって、日本語教育を行う際の留意点を考察する。
授業内容	外国人材とともに働いている日本人や外国人材を働く現場に送り出すための研修に関わっている日本人へのインタビューを視聴する。 第1部：介護の現場 第2部：団体、企業、コンビニ、の各業種の現場、まとめ

科目名	就労者に対する日本語教育 (就労に関わる日本語能力の要件) (2 単位時間)
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	就労に関わる日本語の要件について、就労の現場で日本語能力がどのように捉えられているかを概観し、国際的な言語能力評価の枠組み、

	就労の態様と求められる日本語能力の要件、日本語能力の客観的証明となる大規模言語試験の代表例を取り上げて具体的に理解を深める。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 就労現場で求められる一般的な日本語能力の要件 2. 国際的な言語能力評価の枠組み 3. 就労の態様ごとに求められる日本語能力の要件 4. 日本語能力の証明や判断基準として使われる日本語テスト 5. 効果的な試験対策

科目名	職場におけるコミュニケーションと日本語教育 (3 単位時間)
担当講師	高見澤孟 元米国国務省日本語研修所、元昭和女子大学大学院
授業の目的・目標	就労者に対する日本語の教授に関する知識として、職場においてどのような日本語能力が必要とされているのかを把握し、それぞれの就労者に適した日本語教育ができる実践的な知識を持つ。
授業内容	<p>第1部：言語的背景と日本語教育 就労分野別に、問題点、学習内容、指導の具体例を紹介</p> <p>第2部：文化的背景と日本語教育 日本文化と日本語との関りから、日本語教育のあるべき姿を検討</p>

科目名	キャリア支援と日本語教育 (2 単位時間)
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
授業の目的・目標	キャリアとは何か、キャリア支援の流れと、キャリア支援の現場、日本語教師として支援する側として、どのような姿勢で臨み、関わっていけばいいのかを考える。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアとは何か 2. キャリア支援の流れ 3. キャリア支援の実際と日本語教育の関わり ～人材紹介や人材派遣の現場から～

科目名	就労者の異文化受容・適応 (1 単位時間)
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授

授業の目的・目標	就労者の異文化変容と異文化適応の観点から「異文化間トレランス」について理解を深める。
授業内容	<p>【第1章】多文化共生・異文化適応・異文化変容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 多文化共生とは 1-2. 「異文化適応」と「異文化変容」とは 1-3. 異文化適応のプロセス 1-4. 異文化変容（culturation）とは 1-5. 異文化変容のプロセス 1-6. 文化変容のレベル <p>【第2章】事例①、②から</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-1. 異文化適応に関する事例①から 2-2. 異文化間トレランスの獲得の事例②から <p>【第3章】まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 3-1. 外国人就労者、受け入れ企業、そして日本語教師が知っておくべきこと 3-2. 最後に

科目名	学習動機と就労現場における学習者心理（4単位時間）
担当講師	堀井恵子 武蔵野大学 名誉教授
授業の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストスピーカーの座談会からの引用と解説を行い、職場におけるトラブルの具体例を知る。 ・日本語学習者、就労準備・職場における学習者の成長と言語発達について理解する。
授業内容	<p>職場におけるトラブル1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人労働者の現状 2. 職場におけるトラブル 3. 在留資格別トラブル例 <p>職場におけるトラブル2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在留資格別トラブル例 2. 異文化理解不足によるトラブル <p>学習者の成長と言語発達</p> <p>就労準備・職場における学習者の成長と言語発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技能実習生の成長 2. 高度外国人材の成長

科目名	職場コミュニケーションに関する言語間対照 (1 単位時間)
担当講師	林千賀 城西国際大学 国際人文学部国際交流学科 教授
授業の目的・目標	職場においてどのようなコミュニケーションが展開されるのか、事例や表現から考え、就労者がどのような日本語表現を身につけておかなければいけないかを考えながら、目的別日本語教育 (JSP) を行っていくことの重要性を学ぶ。
授業内容	1. 社内の日本語 1-1. 就労者の声：「自分が学んだ日本語と違う」 1-2. 上司から部下へ 1-3. 就労者から上司へ 2. 上司への日本語・社外の日本語：敬語 2-1. 相手が誰かによって異なる敬語の使用 (1) 2-2. 相手が誰かによって異なる敬語の使用 (2) 3. 語用論の観点から 断り、共感、依頼、褒め、曖昧表現、間接表現

科目名	コースデザイン演習—概要 (2 単位時間)
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
授業の目的・目標	対面授業、スクーリングで実践に活かせるよう、就労者に対する日本語教育プログラムのコースデザインについて学ぶ。
授業内容	日本語教育の設計図—コースデザイン ニーズ分析の手法、目標設定、シラバス・デザイン、カリキュラム・デザイン、授業実施、点検、評価、改善の手法

科目名	各種指導法—ビジネス日本語の具体的指導法 (4 単位時間)
担当講師	道木容子 東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
授業の目的・目標	東京ギャラクシー日本語学校ビジネス日本語クラスでの授業方法を事例として取り上げながら、具体的に考えられる指導項目を整理し、具体的な指導法を学ぶ。
授業内容	1. はじめに 2. ビジネス日本語指導上の特性 2-1 多岐にわたる指導内容

	<ul style="list-style-type: none"> 2 - 2 指導上の留意点 3. ビジネス日本語の具体的指導法 <ul style="list-style-type: none"> 3 - 1 日本語力の面から見た指導内容の特性とその指導法 3 - 2 話す力 <ul style="list-style-type: none"> 3 - 2 - 1 指導法実例紹介 電話の場面 3 - 3 語彙 3 - 4 書く力 3 - 5 読む力 3 - 6 聞く力 3 - 7 待遇表現 4. 日本語以外の側面の指導内容
--	--

科目名	就労のための日本語教育教材・教具のリソース (2 単位時間)
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
授業の目的・目標	就労準備から就労後に至るまでの教育実践に必要なリソースについての知識を身につける。
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> 1 - 1. 就労のための日本語教育について <ul style="list-style-type: none"> 2. 教材・教具について 3. リソースについて (自律学習) 4. 教育における ICT について (e ラーニング) 2 - 1. この分野のリソースの実際 <ul style="list-style-type: none"> 2. 著作権法について

オンライン参加型研修

教育内容*	オンライン参加型研修科目名	単位数	自己研修単位数	担当講師名 (敬称略)	所属機関／役職名等 (2021年4月時点)
⑤	就労者の多様性	1		伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
⑦	キャリア支援と日本語教育	1		小田金欣也	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 就職支援室長
⑩	コースデザイン演習—概要	2		伊東祐郎	国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
⑩	コースデザイン演習 a	1	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑩	コースデザイン演習 b	3	2	新山忠和	千駄ヶ谷日本語学校 副校長
⑩	コースデザイン演習 c	3		吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 校長
⑩	コースデザイン演習 d	3		小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
⑪	各種指導法—ビジネス日本語指導法（演習）	3	1	道木容子	東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
⑫	評価・報告—評価及びフィードバックの方法、自律学習	3		吉川正則	千駄ヶ谷日本語教育研究所 附属日本語学校 校長
⑫	評価・報告—分析的な振り返り、内省化の強化				
⑮	異文化調整能力	2		小山紀子	千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長

*教育内容の ①～⑮は、『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』文化審議会国語分科会（平成31年3月4日）表16「就労者に対する日本語教師【初任】研修における教育内容」記載の教育内容による。

【各講義の内容】

科目名	就労者の多様性 (1 単位時間)
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
授業の目的・目標	外国人受入にかかわる現況を把握した上で、日本語教師の役割を再確認することを目的とする。
授業内容	1. 振り返り ★e ラーニング研修（高見澤先生）受講後の感想やコメントを共有 2. グローバル社会で何が起きているのか ★外国人受入に係わる現況を把握 3. 日本語教育の現状 ★日本語教育の多様化について再確認 4. 日本語教師の資質・能力、そして専門性とは ★就労者に対する日本語教師の役割等について概説

科目名	キャリア支援と日本語教育 (1 単位時間)
担当講師	小田金欣也 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 就職支援室長
授業の目的・目標	本科目の e ラーニング教材の内容を確認し、現場のプロの話の話を直に聞き、現場での対応についての質疑応答も通して理解を深めさせる。
授業内容	1. 日本語教師が行うキャリア支援とは 2. キャリア支援の実際 ～ キャリア支援の現場から ～

科目名	コースデザイン演習—概要 (2 単位時間)
担当講師	伊東祐郎 国際教養大学専門職大学院 グローバル・コミュニケーション実践研究科 日本語教育実践領域代表
授業の目的・目標	事前に視聴した「e ラーニング研修」を受講して、就労者に対する日本語教師としての心構えや研修受講に対する自身の目標を明確化することを目的とする。
授業内容	1. e ラーニング研修を受講しての振り返り ★ここで受講者からの感想や質問を受け付ける。 2. 日本語プログラムの企画・運営 ★ある職業の日本語プログラムの企画を想定して、e ラーニング研

	<p>修で学んだ以下の(1)～(2)を再確認する。</p> <p>(1) ニーズ調査とその分析</p> <p>(2) レディネス調査とその分析</p> <p>(3) 学習目標／到達目標の設定</p> <p>(4) シラバス・デザイン</p> <p>(5) カリキュラム・デザイン</p> <p>本講義は e ラーニング研修内容の想起を目的とし、後続する「コースデザイン演習」につなげる。</p>
--	---

科目名	コースデザイン演習 a (オンライン参加型研修 1 単位時間／自己研修 2 単位時間)
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
自己研修課題 (事後課題)	<p>【課題】</p> <p>授業内で視聴する学習者のインタビュー動画とメール文面を基にして、グループ毎にコースデザインを行う。</p> <p>(学習者) 外国人就労者 2 名</p> <p>(コースデザイン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 名に対して、90 分の授業を週 2 回、1 カ月、計 8 回指導するという前提でコースデザインを行う。 ・ 内容に盛り込むべきこと。 <ul style="list-style-type: none"> ①コースの目標 ②科目構成 ③科目別の目標 ④教材・教具 ⑤評価 ⑥8 回の授業計画 <p>【グループ単位】 3～4 名一組の 4 グループ</p> <p>【課題の提出】</p> <p>課題は事前に提出させ、担当教師・参加者で事前に共有する。</p>
授業の目的・目標	本研修の狙いを再確認し、ビジネス日本語教育と進学予備教育との違いを踏まえて取り組むことの意義を認識させ、次回以降の演習の課題を示す。自己研修はグループ単位での課題検討・作成の時間となる。
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースデザイン演習と関連科目の進め方 2. ビジネス日本語教育と進学予備教育の違い 3. グループワークの進め方 4. 次回 (10/30) への課題 5. 学習者情報とインタビュー動画視聴

科目名	各種指導法ービジネス日本語指導法（演習） （オンライン参加型研修 3 単位時間／自己研修 1 単位時間）
担当講師	道木容子 東京ギャラクシー日本語学校 教務主任
自己研修課題 （事前課題）	・ビジネス会話(電話のやり取り)の授業の進め方を考え、教案と資料をグループごとに作成。 ・メールの書き方の授業の進め方を考え、教案と資料をグループごとに作成。
授業の目的・目標	ビジネス日本語の指導法を具体的に学ぶ。 特に、中上級レベルの日本語力の学生を対象としたビジネス会話とメールの書き方の指導を中心に取り上げ、コースデザイン演習 b,c,d へ繋げる。
授業内容	準備をしてきた課題についてグループセッション 課題発表 ・授業の進め方の説明 ・模擬授業 意見交換とフィードバック

科目名	コースデザイン演習 b （オンライン参加型研修 3 単位時間／自己研修 2 単位時間）
担当講師	新山忠和 千駄ヶ谷日本語学校 副校長
自己研修課題 （事後課題）	コースデザイン演習 c、d で行う授業実践に向けた教材の準備と事前練習。指導案（教案）は事前に提出する。
授業の目的・目標	ビジネス日本語教育は、レディネスの異なる学習者に対して、ニーズに応じて臨機応変の対応が求められることを再確認し、コースデザイン c,d へ繋げる。※コースデザイン b,c,d 共通
授業内容	1. コースデザイン演習と関連科目の進め方（確認） 2. コースデザインの流れ（確認） 3. グループでの打ち合わせ 4. プレゼンテーションと質疑応答、フィードバック 5. 演習 c、d への事後課題について

科目名	コースデザイン演習 c (3 単位時間)
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
授業の目的・目標	ビジネス日本語教育は、レディネスの異なる学習者に対して、ニーズに応じて臨機応変の対応が求められることを再確認する。※コースデザイン b,c,d 共通
授業内容	45 分ずつ 2 グループの授業実践（会話指導）を行い、グループ毎の振り返りと意見交換、担当講師によるフィードバックを行う。

科目名	コースデザイン演習 d (3 単位時間)
担当講師	小山紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長
授業の目的・目標	ビジネス日本語教育は、レディネスの異なる学習者に対して、ニーズに応じて臨機応変の対応が求められることを再確認する。※コースデザイン b,c,d 共通
授業内容	45 分ずつ 2 グループの授業実践（メール指導）を行い、グループ毎の振り返りと意見交換、担当講師によるフィードバックを行う。

科目名	評価・報告 評価及びフィードバックの方法、自律学習 分析的な振り返り、内省化の強化 (3 単位時間)
担当講師	吉川正則 千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校 校長
授業の目的・目標	評価及びフィードバックの方法、自律学習についての理解を深めさせ、分析的な振り返りを、実践を通して習得させ、内省力の強化に繋げさせる。
授業内容	1. 評価・フィードバックの方法 2. 分析的な振り返り 3. 自律学習 4. 経験と内省 5. 科目の振り返り

科目名	異文化調整能力 （2 単位時間）
担当講師	小山紀子 千駄ヶ谷日本語教育研究所 副所長 *ゲストスピーカー：堤 凜衣（株式会社アスク出版）
授業の目的・目標	学習者の異文化理解能力に留まらず、就労者の周囲の日本人社員等の異文化理解能力についても目を向けさせ、周囲の日本人社員に対する教師としての効果的アプローチについても理解を促す。
授業内容	技能実習生について 技能実習生に対する日本語教育の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・ 技能実習制度における日本語教育（配属前日本語教育） ・ 受け入れ企業における日本語教育（配属後日本語教育） 技能実習生に関わる日本人とは 技能実習生への日本語教育 日本語教師の役割 まとめ